

ヴィッセル神戸からリオへ

阪神・淡路大震災の復興の象徴として活動してきたヴィッセル神戸。震災20年を迎え、1月にはチャリティーマッチを行うなど様々な活動を行っている。今回は神戸学院大学附属高等学校卒で、今シーズンの躍進が期待されるMFの前田凌佑選手とGKの吉丸絢梓選手に取材をした。



パスコースを探す前田選手 ©VISSEL KOBE

MF前田凌佑選手

神戸学院大学附属高OB

GK吉丸絢梓選手

サッカーを始めた時期は、前田選手は小学校2年生の夏でその年に行われた日韓W杯を見て自分も出たいと思ったから。吉丸選手は小学校に入ってからすぐ自分の兄弟がやっていたので自分もやりたいと思い自然に始めたそう。

宮崎県出身の吉丸選手。地元のチームからも声がかかっていたのになぜ神戸に来たのだろうか。「中学校2年生のときにトレセンによれば、自分より上のレベルの人がいて、その人たちとやりたいと思った。そして本気でプロになるには、九州から出るしかない」と思いヴィッセル神戸に加入し、神戸学院大学附属高等学校に入学したという。自分の長所を聞いたところ、前田選手は「チームのためと仲間の選手が気持ちよくできるプレー」、吉丸選手は「シュートストップの精度」を挙げた。吉丸選手は2013年のJユースカップの決勝でPKを止め、14年



セービングをする吉丸選手 ©VISSEL KOBE

ぶり2度目の優勝に導いた。2014シーズンは、両選手とも満足できるシーズンではなかった。前田選手は、JリーグU-22選抜として出場したJ3でJリーグ初ゴールを決めたが、J1の試合に出場することはなかったし、自分のやりたいプレーがやれなかった。吉丸選手は、同じようにJ1の試合に出場できなかったこと、そして一番悔しかったこととしてU19日本代表でW杯に行けなかったことを挙げた。

前田選手の憧れの選手はFCバルセロナ(スペイン)のブスケツ選手。目立つ選手ではないが、チームのためにプレーする姿を自分と重ねあわせる。吉丸選

手は、昨年のブラジルW杯でドイツ代表として優勝に貢献したバイエルン・ミュンヘン(ドイツ)のノイアー選手。世界で活躍する選手を目標に日々成長を続ける。両選手の来シーズンの目標は、試合に関わり、自分のしたいプレーをする。最後に若い世代へのメッセージとして、前田選手「自分の好きなことを一生懸命に努力すれば夢は叶う」、吉丸選手「一つ夢になる事を見つめることが大切」と言っていた。昨シーズンは満足がいかなかったプレーをできなかった両選手だが今シーズンの活躍と共にヴィッセル神戸のますますの発展を期待したい。

記事・畑中真理奈

今を噛み締め 次の目標へ

情報処理大会で優勝 市立神港高2年・多井奈緒子さん

市立神港高等学校情報処理科2年の多井奈緒子さんが昨年6月に行われた「第26回全国高校情報処理競技大会兵庫県大会」個人の部で優勝、続いて参加した「商業教育130年記念第26回全国高等学校情報処理競技大会」でも入賞を手にした。2年生で優勝という快挙を達成した多井さんにこの大会への想いを聞いた。

—情報処理競技大会に出場した理由は？

出場した理由は唯一ではないが情報処理の公式の大会だったからということ、部活動で参加するということがだったので出場しました。

—情報処理研究部では大会に向けて何をしていたか。

基本情報技術者試験が終わったあたりから過去問題を解き始めました。特に私と他2名の部員は過去問題を解いては見直し、解いては見直しの繰り返しでした。

—全国大会に出場した時の心境は？

さすが全国といった感じでした。すごく強い人達ばかりなので、入賞できればいいなと思っていました。実際に問題を

解いても解けず、やはり全国というものはレベルが高いと思いました。特に上位の方々は高得点を取っていて正直言って化け物レベルだなと思いました。

—優勝した時の心境は？

まさか自分が1位になるとは思っていませんでした。他にも3年生はたくさんいましたし2年生も大勢いて自分が1年生の時の大会で入賞していたのは3年生ばかりだったので2年生で優勝できるとは思いませんでした。

—この情報処理競技会が多井奈緒子さんにとってどういった大会になりましたか？

今となってはとても重要な大会になったと思います。2年生になってから2回目の大会だったので、優勝するとは思っていませんでした。3年生になってからは2年生で主力となって楽しんで競技に出場出来るのはこの時しかないと思いました。

—情報処理研究部はどういった活動をしていますか？

(清川先生) 資格取得をメインにやっています。



トロフィーを持つている多井奈緒子さん(左)と情報処理研究部顧問の清川先生

ておらず、いつも他校の後ろを追いかける三番手状態なので、来年は団体優勝を目指しています。

—清川先生は大会で多井さんをどういった感じで見守っていましたか？

(清川先生) 4月から過去問題を解いていたのでもう解いていない問題はないだろうというぐらいに過去問題を解いていました。兵庫県大会の過去問題だけでなく全国大会の過去問題も解いて、今までにないほどの練習と準備をしたので結果はどうぞであれ、やったことが無駄にならないように思っていました。

—最後に今後の大会への想いをお願いします。

次どんな2年生が出てくるのかわからないですし、今回の全国大会に出場したとき他校の2年生がいたのですが、その人に抜かされてしまったので来年はもう少し頑張らないと1位は取れないと思っています。

記事・写真 池田真唯、前田遥香

<補足>情報処理検定試験とは？ コンピュータのハードウェアやソフトウェアに関する知識、ビジネスにおける実務的表計算ソフトウェアの活用やデータベースソフトウェアの活用、プログラミングに関する技能をはかる検定が情報処理検定です。

編集後記



■河本莉歩@兵庫商業 この記者クラブに今回参加させてもらって、本格的な新聞を作ったり、自分たちでお店に取材に行ったり、普段の生活ではなかなか体験のできないことができてとても楽しかったです。本当にありがとうございました。この経験を今後生きていきたいと思っています。

■吉田愛理@兵庫商業 アボ取り・取材・記事作りまで、本当にたくさんの手助けをして頂きながら、自分たちで新聞を完成させることができました。この新聞を多くの方に読んでもらい、兵庫区について知ってもらえれば良いなと思います。ご指導をいただいた皆様、本当にありがとうございました。

■岡本航輔@兵庫高校 学校の活動と両立して記者クラブの活動を行わなければならなかったのが、大変だったけれど、取材では興味深い話をたくさん聞かせていただきました。何回も取材に向かうことになってしまった取材先もありましたが、そのぶん良い記事を書くことができたと思います。取材すること、記事を書くことなど初めて経験することがたくさんありましたが、充実してこの活動を行うことができました。今後もこの活動を糧にして色々なことに励みたいと思います。

■宮本梨生@兵庫高校 私自身、元々兵庫区民ではありませんでしたが、祖母の家が兵庫区にあったこともあり、小さい頃からよく湊川などを訪れていました。しかし、今回の取材や新聞作りを通して、今まで「お客さん」という立場でしか行ったことのないお店で貴重なお話を聞かせていただいたり、本当の新聞を書く大変さを味わったりと、自分にとって大変充実した時間を送らせていただきました。この新聞作りを通じてくださったスタッフの皆様や、このような機会を与えてくださった先生に感謝したいと思います。ありがとうございました。

■佐野香之@兵庫高校 テーマ設定や取材など大変なこと多かったですけれど、記事が完成した時にはそれを上回る達成感がありました。また新聞が完成に近づくにつれて、毎回の集まりがとても楽しみになりました。記者クラブの方や取材させていただいた方、すべての方が優しく楽しく活動することができました。本当にありがとうございました。皆さんの記事も読んでもらえたいです。

■ゴマル萌恵@兵庫高校 取材をさせていただいた方の思いに記事にすることができました。皆さんの記事も読んでもらえたいです。

■池田真唯@市立神港高校 人生で初めて取材をして記事を書きました。学校の同じ学科の先輩に取材したのですが、初めての取材ということもあって取材相手に手間をたらせてしまったり上手く取材ができなかったりしたのですが、時間が経つにつれて徐々に緊張もほぐれて笑顔で取材を終られてよかったと思いました。この記者クラブを通して記事を書くことの難しさや大変さを知りました。良い経験になったと思っています。ありがとうございました。

■松本梨々@市立神港高校 最初は記者クラブってどのような活動かわからなくて緊張していましたが、皆さん優しくすぐに打ち解けることが出来ました。取材も記事作りもしたことがなかったのが不安でしたが、記者さんがアドバイスを出してくれて、良い記事を作ることが出来ました。このような経験は減多にすることが出来ないし、色々なことを学ぶことが出来た良かったです。ありがとうございました。

■前田遥香@市立神港高校 本当の記者さんになった様な貴重な体験が出来て良かったです。何気なく読んでいる新聞がこんなに大変なことは思いませんでした。でも、記者クラブの人たちと協力し合えたのが無事に作ることが出来ました。一つ一つが新鮮でした。今後の生活においてもこの経験を活か

せたいと思います。ありがとうございました。

■王国屹@市立神港高校 記者クラブの活動に参加できて、とても良い経験となりました。初めはとても不安で緊張していましたが、区役所の方や神戸新聞の方が色々なことを教えてくれて、徐々に記者に近づいている気分が楽しかったです。記事を書く基本のテクニックや写真の正確な撮り方なども習得できて良かったです。これからの人生の中でも生かしていきたいです。

■畑中真理奈@神戸学院大学附属高校 記者クラブの参加は友達に誘われての参加でした。自分の好きなことについて取材をしましたが、慣れないことばかりだったので大変でした。友達が留学に行って2人分の記事を書くなどいろいろな経験がありました。普段できないような経験をたくさんできました。できれば、今後もこのような活動に参加したいと思います。

■川内綾恋@神戸学院大学附属高校 (海外留学につき途中までの参加のため)最後まで活動出来なくて申し訳ないですが、すごく良い経験になりました。ありがとうございました。日本に帰ってから新聞を読むのを楽しみにしています。